

スポーツ・武道実践科学系

氏 名 たけ なか けん たろう 竹 中 健太郎 准教授



主な研究テーマ

☐ 「現代剣道の技術的研究」

剣道の歴史文化、特性を踏まえた、現代剣道の効果的な指導法及び稽古法の研究。

平成24年度の研究内容とその成果

現代の剣道は、武術として日本刀での剣術から、時代の変遷を経て竹刀、防具の開発により竹刀で打突し合うに至り、武道としての道を歩み進んできました。これまでにこの歴史ある武道の一つである剣道について、「足捌き」「姿勢」「間合」など競技者と指導者の両面の立場から競技力向上に向けた技術的研究をすすめてきました。特に近年は、技術獲得の過程や競技力向上のための稽古法など、実際の現場での事例を題材とする実践的研究を中心として研究活動を行っています。

平成24年度は、攻撃主体の剣道構築に向けた指導事例について、本学での取り組みをまとめ剣道専門誌に紹介しました。その中で、顕著に成果の現れた事例についてはその詳細を、一般の方々がウェブ上で閲覧できる「スポーツパフォーマンス研究」に投稿しました。「剣道における面技の攻め・崩しおよび打突動作の修正が競技力向上に結びついた事例研究」として、動画と合わせてアップされています。

これからの研究の展望

剣道を専門とする実技の教員である以上は、24年度に引き続き、指導現場や剣道実践者にダイレクトに還元できる研究を行っていきたいと考えます。さらに、24年度から着手した中学校での武道の必修化に伴う「剣道の授業における効率的な指導法」についての研究も煮詰まった段階となりました。初心者指導における「気剣体一致」の打突技術の習得が効率的に行うための指導手順について、有用となる資料を提供したいと考えています。

一方で、本学は武道課程を有する体育大学ですので、我々は技術向上への研究や取り組みと並行して、武道の特性を踏まえた本質的な剣道を次世代に継承する使命も忘れてはならない立場にあります。昨今の剣道は、国内はもちろん、世界規模での剣道大会（試合）の隆盛による競技化が進む一方で、武道としての剣道の特性が失われることへの懸念の声が後を絶ちません。したがって、今後は技術的研究にとどまらず、剣道の歴史的背景や精神性を踏まえた剣道の本質的な修錬（上達論）と現代剣道の技

術（勝負論）との融合、連結を示唆するための研究をすすめ、伝統文化としての剣道の普及と伝承に貢献していきたいと考えています。